

## 議事録

---

項目:第10回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会

日時:令和7年(2025年)3月26日(水)10:00~

場所:熊本市役所 議会棟 2階 予算決算委員会室

出席者(敬称略)

学校法人 東海大学

名誉教授 市川 勉(会長)

熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター

教授 星野 裕司(副会長)

熊本大学 大学院先端科学研究部 土木建築学部門

教授 皆川 朋子

東海大学 文理融合学部 人間情報工学科

特任助教 天野 弘基

熊本県立大学 環境共生学部 環境共生学科 環境資源学専攻

准教授 斎藤 達也

熊本大学大学院 先端科学研究部(理)

准教授 中田 晴彦

教育委員会事務局 教育総務部 熊本博物館

主幹 清水 稔

熊本県立図書館

館長 野尾 晴一郎

熊本市ローイング協会

理事長 内藤 竜一

江津湖貸舟協同組合

理事 川上 二矢

一般社団法人 熊本市造園建設業協会

会長 吉村 昌洋

一般財団法人 熊本市文化スポーツ財団

理事長 石櫃 仁美

江津湖の自然と水を守る会(水前寺江津湖公園愛護会)

会長 大塚 正法

水前寺江津湖(児童)公園愛護会

会長 藤本 美代子

出水校区自治協議会

会長 榮田 晶夫

健軍校区自治協議会

会長 佐藤 虔二

画図校区自治協議会

会長 久保田 玲子

泉ヶ丘校区自治協議会

会長 永田 俊洋

秋津校区自治協議会

会長 工藤 修一

熊本市子育て支援ネットワーク連絡会

副会長 西原 明優

熊本県文化協会

副会長 原 幸代子

熊本記念植物採集会  
会長 奥村 智治  
熊本野生生物研究会事務局  
企画担当 歌岡 宏伸  
自然観察指導員熊本県連絡会  
事務局長 田畑 清霧  
日本野鳥の会熊本県支部  
事務局長 原口 研治

---

～(水前寺江津湖公園利活用・保全計画)の開会～

司会 (開会)

森の都推進部長 (挨拶)

～(資料1～3)について説明～

野尾委員 資料3の2ページ③の1に文化財の話があります。我々はこれまで熊本市と連携して様々な事業を展開し、企画展も2回開催しました。本の森も開館し、環境や水に関する絵本のコーナーも設けています。本の森や文学歴史館も含めて庭園があることは大きなメリットと考えます。特に本の森は安藤忠雄先生が蒲島知事と共にロケーションを選ぶなど、歴史的文化的価値が溢れる土地に建てられていることをありがたく思います。今後、文化財に関する情報を早めに提供いただければ、県立図書館としても支援できる部分が増えると思います。また、本の森開館後、県立劇場や气象台と共催イベントを開催し、来場者は4万5千人を超えました。今後、公園の関係団体とも共催イベントを開催できればと考えているので、ご相談いただければと思います。

事務局 ご意見ありがとうございます。江津湖の魅力として、歴史文化は非常に大きいと考えます。計画の見直しに際し、様々な分野で連携事業を考えていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

田畑委員 確認だけですが、資料1の2ページ目にゾーニングがあり、全体が保全エリアですと、ご説明いただきましたので、安心したところです。江津湖は本当に人と自然との共生ということが謳われる大事な場所です。すべての場所を人が便利に活用すると、共生してくれている自然の生き物は消えてしまいます。彼らの隠れ場所や避難場所、人が多いときに逃げる場所、夜のねぐらなども含めて、全体を保全エリアとして認識していただいているようですので、今後ともご配慮よろしくお願いいたします。

事務局: このエリアの設定については当初、令和2年度に皆さんと話し合いながら、保全エリアを全体に広げ、利活用エリアを絞る形で設定しました。その設定に沿って、現状の江津湖の管理においても葦群の石があるところは手を入れずに保全を進めています。引き続き、このようなエリア設定を考えていきたいと思っております。

市川会長: よろしいですか。それでは資料4の説明をお願いします。

～(資料4)について説明～

永田委員: TSMCが進出しており、水質汚染が課題かもしれません。前回の調査ではPFASやPFOSは検出されませんでしたが、工場が本格稼働するため、水質検査をお願いしたいと思っています。また、広木地区の自治会からサイクリングロードに漂流物やヘドロが堆積しているのでこれらの除去を積極的に行っていただきたいとの要望があります。さらに、地元の自治会が子供にボートを教える教室を行っていますが、ボートを江津湖に出す際に藻が繁茂して侵入できないことがあります。これらの除去も積極的にお願いたします。江津湖の環境整

備を進めていただければと思います。よろしく申し上げます。

事務局 ご意見ありがとうございます。3点のご意見をいただきました。外来植物の繁茂や堆積土砂によるにおいなどで地域の方々にご迷惑をおかけしているとのこと。江津湖の現状については、資料4の写真にもあるように、広木地区のコウガイセキショウモが繁茂しており、毎日水草を刈り取っていますが追いついていない状況です。外来植物の繁茂対策やヘドロの堆積について、皆さんと議論しながら江津湖の環境を良くしていく取り組みを進めたいと考えています。また、水質についても毎年分析を行っていますが、来年度からは湖底の泥の成分分析も行う予定です。以上です。

大塚委員: 計画の見直しについて、資料4に外来魚の記載があります。江津湖の中は現状維持の感じをうけるが、江津湖の周り流れ込む川などに、ものすごい数の外来魚がいますので、江津湖の中だけを駆除しても効果が少ないのではないかと。また、釣った外来魚を入れる生簀の設置は効果が薄いと思います。釣ったブラックバスを買い取る方法の方が効果的ではないでしょうか。また、入り江にたまった水草が、風で流れ込むことがあります。これらの問題についても対策を考える必要があると思います。

環境政策課: 外来魚駆除について、これまで江津湖内の駆除しか行っていませんでしたが、ご意見の通り支流から入ってくるという話もいただいていることから、今後は支流にも目を向けて対応策を考えていきたい。生簀については、令和5年度には約480匹の外来魚を駆除していることから、市民の啓発活動に繋がると考えています。ブラックバスの買い取りについても検討したいと考えます。ご提案ありがとうございました。

大塚委員: 以前、江津湖のウナギを買い上げていた和食店がありましたが、単価が下がったため子供が持って行かなくなりました。子供が持って行きたくなるような値段にすれば、多く集まると思います。

歌岡委員: 資料10番をご覧ください。江津湖には希少な野生動植物が生息しています。令和5年から調査を行っていますが、特にカヤネズミが重要と考える。カヤネズミは草原に丸い巣を作り子育てする日本で一番小さなネズミです。去年の12月にカヤックで調査したところ、下江津湖の広木で7つの巣を見つけました。浚渫工事の際には十分な配慮をお願いします。私たちも協力しますので、頻りに情報をやりとりしながら進めてください。よろしくお願いします。

事務局 カヤネズミがいることをご紹介いただきありがとうございます。浚渫の実施については、今後1年間、必要性を議論した上で判断します。実施する場合は、環境への影響を最小限に抑えながら進める必要があります。一気に行うのではなく、ステップを踏みながらモニタリングを行い、環境への配慮をしていきます。

市川会長: 前回の浚渫では、底質をほとんど取り除いたため、二枚貝がほとんどいなくなり、バラタナゴも上江津湖から消滅しました。その情報は事務局も持っていると思いますので、1年かけて検討してください。

田畑委員: 浚渫に関する文章で「堆積土砂」と「ヘドロ」が出てきますが、これらは同じではありません。また、浅いところ好む生き物もいるので、浅くなったからすべて撤去するのではなく、区別して調査しながら検討してください。ヘドロ化している部分はごく一部だと思います。

事務局 堆積土砂とヘドロの使い分けが曖昧でした。来年度、底質の成分分析を予定しており、結果を踏まえ、堆積土砂やヘドロの状況を把握したい。江津湖には流入河川があり、大雨時に土砂が流れ込みます。水草の排出物もたまり、ヘドロ化しています。来年度の分析でヘドロの場所を特定し、生き物調査も併せて行いながら判断します。

内藤委員: 熊本市ローイング協会理事長の内藤です。ローイングとはボート競技のことです。私は上江津が実家で、現在は湖東に住んでいます。高校時代からボート部で、今も高校生の指導をしており、日常から江津湖を見ますが江津湖の水が減った印象があり、外来種の繁茂は夏場にボート競技に影響を与えています。特に高校生のインターハイや国体の時期に水草の影響で落水や座礁が発生し、人命にも関わる状況です。外来種が拡散する前に防ぐ対策ができないかと感じています。江津湖は貴重な環境で、全国の指導者が驚く場所です。しかし、小学校や中学校の子どもたちの受け皿が出来ていない。また、ジュニアの子供たちのボートを置く場所がなく、雨ざらしに

なっています。江津湖のポテンシャルを活かし、環境教育や施設整備を進めていただければと思います。

事務局: 明治期には夏目漱石も江津湖でボート競技を行ったそうですが、現在、外来水草は江津湖の環境を悪化させ、公園利用にも支障をきたしています。毎日、刈取船で刈っていますが、追い付いていないのが実情です。短期的な対策として、来年度は刈草船を 1 隻追加します。中長期的には浚渫の実施の方で改善できないか検討したい。江津湖の魅力を全国に伝え、子供たちの学びの場として活用することは有益だと考えており、計画の改定にあたり、学びのプログラムを検討していきたい。

清水委員: 外来魚の駆除についてお願いがあります。駆除した魚は肥料や飼料に加工されると思っていましたが、実際には焼却処分されています。見学に来た小学生や中学生からは必ず「この魚をどうするんですか」と聞かれることから、何にも利用されないと駆除する側の精神的負担が大きい。駆除された魚が活用されるような方策を考えていただきたい。

環境政策課: ご意見ありがとうございます。現時点では、回収した外来魚は駆除して焼却処分しています。今後、処理する職員や事業者の心的ストレスや、小学生の見学時の説明方法についても考慮し、活用方法を検討してまいります。

皆川委員: 先程、外来種の江津湖以外の分布状況についても指摘がありました。今年度、緑川流域で環境 DNA 分析を行い、外来種の分布域が広がっていること、在来種が激減していることが確認されました。二枚貝は、殻だけの死体も多く確認された。江津湖だけでなく流域という観点で保全や再生の対策を進めることが重要です。2030 年までに生物多様性を回復する国際目標もあり、県と国と市が連携して取り組む必要があります。また、今年度、学生の卒業論文で江津湖の地形測量を行いました。コウガイセキショウモの影響はあるが、1 メートルほど堆積していることが分かりました。また、マイクロプラスチックについては、市が来年調査を行うと聞いているが、流入対策が重要になると思うが水中に入ってしまうと難しい。雨庭とかグリーンインフラとか浸透させる取り組みだけでなく、例えば道路からの排水の段階で水質浄化、トラップできる仕組みがあれば流入量が減らせる。流域管理の視点で江津湖への負荷を減らす対策を計画に位置付けることが必要だと思う。再生エリアについても計画を立てるときに議論したが、ほかにも場所があるという議論もしていたので、来年度の調査結果も踏まえ、皆さんで現場を見るなどして、見直しできればと考えている。

事務局: ご意見ありがとうございます。委員ご指摘の通り、江津湖だけでなく周辺の木山川や加勢川でも外来種や外来植物が繁茂しています。江津湖だけをターゲットに対策しても、イタチごっこになる可能性があります。関係機関と連携しながら対策を進めてまいりたいと考えている。流入河川への対策についても、マイクロプラスチックが江津湖の底にたまっている状況です。中田先生も協議会の委員に入っていたので、ご協力いただき、総合的な対策を検討してまいりたい。

再生エリアについては、事務局としても、部会の皆さんと現地を歩いて確認し、問題点を把握しながら検討するべきだと考えています。

市川会長: 来年度は計画の見直しが大きな課題になります。江津湖の堆積が増えているため、対策を部会で議論していきます。よろしく願います。

田畑委員: 流入についてですが、周辺の民有地から良い水が湧いており、江津湖を潤しています。重要な水、生き物のつながりも含め、周辺との協力関係とかも重視しないと、江津湖エリアの保全は難しい。また、ホテルの時期など江津湖の街灯は季節によって消していますが、周辺からの明かりも影響します。周辺との連携が必要です。

事務局: 江津湖の湧水については、熊本地震後に変化がありましたが、改めて把握しながら、湧水スポットの保存に努めたい。周辺との関わりも重要で、色々な取り組みが必要とは思っているが、その辺については今後の課題とさせていただきます。

市川会長: 江津湖の湧水量は地震後に増え、現在は 1 日約 57 万トンから 58 万トンです。主に斉藤橋までの湧水が多いが、上江津の湖底からの湧水は少なく、後は周辺の陸上から流れ込んでいる。その辺も踏まえ、環境部会で

調査や浚渫について議論してください。

原口委員: 江津湖全体でテグス(釣り糸)の放置が目立っています。去年、大型のタカ類であるミサゴがテグスに絡まり死んでいるのが確認されました。足首から先がないアオサギがいるがこれもテグスが原因ではないかと言われている。釣り人がテグスを放置することで、野鳥や他の動物に影響が出ています。テグスの問題を対策対象にしてください。

事務局: ご意見ありがとうございます。テグスの放置について、釣り人のマナー向上を啓発する活動を進めていき、必要があると考える。江津湖の自然環境を守るため、啓発のサインやアナウンスを行い、計画の見直しの中で事業として検討します。

原委員: 熊本県文化協会の原です。歴史文化の活用と次世代への継承という説明があったが、それには、SNS の活用が重要になると考える。インバウンドの方々にも重要な情報発信源となります。夏目漱石や中村汀女先生、安永蔭子先生の俳句や短歌も次世代に伝えるため、デジタルの活用をお願いします。

事務局: ご意見ありがとうございます。江津湖の魅力を SNS で発信し、多くの方々に知っていただくことを計画の改定に盛り込みます。

星野副会長: 部会の編成について、前回は環境と文化がセットだったが、先ほどの SNS などの件があるので、文化は利活用とセットで構成した方がよいのではないかと思います。前回の計画を踏襲するのではなく、専門委員も含めて議論に見合った部会の方向性を検討していただきたい。

事務局: 部会については、ご指摘を踏まえ、相談させていただきながら、進め方を決めてまいります。

大塚委員: 上江津湖の浚渫が行われる場合、江藤ボートから水前寺公園までの周遊性を向上させるため、飛び石の設置を検討してください。これにより、江津湖の利用が便利になります。

市川会長: 周遊性の向上に関連して、議題の資料 6 で議論していただければと思います。

～(資料5)について説明～

市川会長: キッチンカーの実証実験は、まだ実施中ですか？

事務局: はい、実施中です。

市川会長: 冬場ですが、夏場についてはどうですか？

事務局: 来年度も数ヶ月ごとに期間を分けて実証実験を行い、問題がなければ本格的に実施したいと考えています。

市川会長: ゴールデンウィークが一番多いと思うので、その時期も含めて見てください。

事務局: ゴールデンウィーク期間中はキッチンカー業界としてイベントでの出店を優先するため、GW 明けから実証実験を開始したいと考えています。

～(資料6)について説明～

市川会長: ここで先ほど大塚委員からお話があった件についてお願いします。どのあたりですかね。

大塚委員: 資料6の地図をご覧ください。市の駐車場から中ノ島を渡り、電車通りの方に行くルートです。ゾウさんプールの近くに飛び石を設置すれば、回遊性が向上し利用者が増えると思います。京都の嵐山とか、高知の四万十川にあるが、自然になじんだ形で水深もあまりないので、安全面も大きな影響はないと思います。堤防の裏も造成されているので、水位が上がっても、堤防が壊れる心配もないと思います。

市川会長: 今のご提案について、事務局の方も検討してください。

東区土木センター: ご意見ありがとうございます。現在、江津湖を渡る園路は中之島にかかる園路のみですが、ご提案の場所は1級河川に加勢川で、大雨の際には川の流れが速く、安全面から厳しい状態です。

星野副会長: 川の中に作るのは色々な課題があると思うが、回遊性の検証として、いかに一筆書きのルートをつくるということだと思う。おそらく、飛び石のアイデアもそういう理由だと思うので、既存の橋や車道とのアクセスといった点を含めて、回遊性の検証を進めていただきたい。

市川会長: いくつか手法があると思いますので、検討してください。沈み橋といった話もあります。

田畑委員: 回遊性について、私も通れるのはありがたいが、生き物の生息環境を考慮すると、水辺は生き物にとって重要な場所だが、道は一番水に面した場所に整備されやすいので、道の整備が進むと生き物の生息環境が失われる可能性があります。また、川の片側だけに人がいても鳥は逃げないが、両側に人がいると逃げてしまいます。全て通れるようになって、どの時間帯も通れるようにすることにはならないよう、配慮してください。

市川会長: 今の意見を参考にして検討してください。

皆川委員: 利活用と保全を進めるためにこの委員会が開かれていますが、例えば、それらの情報を集約し、共有できる仕組みを考えていく必要があります。例えば、カヤネズミがいる場所や希少な植物が生育している場所、湧水の場所などをマップ化し、担当者が変わっても継続的に管理できるような仕組みが必要です。情報を蓄積し、保全や取りこぼしを防ぐための仕組みを検討していただきたい。

市川会長: 参考にしていただければと思います。

星野副会長: 希少種のデータを公開してよいかと言った問題はありますが、計画の事業一覧の中に、データベースづくりやGISを活用した情報統合が入ると理想的です。

市川会長: 今回、浚渫関連の資料を探し出すのに苦労していたようですので、同じようなことがないように検討していただきたい。

～(資料7～8)について説明～

市川会長: 予定されていた議事が全て終了しました。事務局にお返しします。

司会: (閉会)